

新しいP-FDP 試薬のご紹介

○河瀬 義弘 (シスメックス株式会社)

【はじめに】

プラスミン等による繊維素溶解（線溶）によって形成されるフィブリン/フィブリノーゲン分解産物の測定は播種性血管内凝固症候群（DIC）の診断基準として重要な指標の一つです。また、DIC 以外にも心筋梗塞などの血栓症や出血傾向を呈する疾患、線溶更新の著しい疾患、血栓溶解療法の経過観察に用いられます。

FDP には分子量の異なる多くの分子バリエーションが存在します。フィブリンの分解産物には高分子のXDP や低分子 DD/E などがあり、フィブリノーゲンの分解産物には X、Y、D、E 分画など様々な分画があります。

FDP 試薬はフィブリンとフィブリノーゲンの分解産物を捕らえています。D ダイマー試薬は架橋化フィブリン分解産物のみを捕らえており、血栓の存在の指標として静脈血栓塞栓症の除外診断にも用いられています。

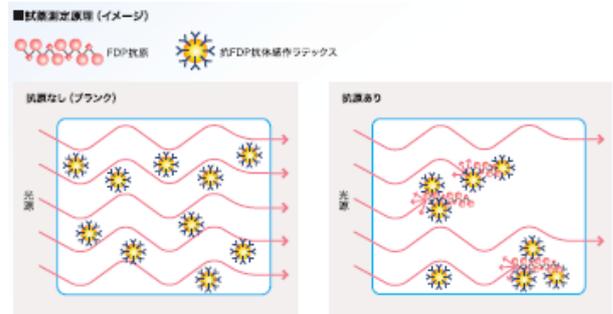
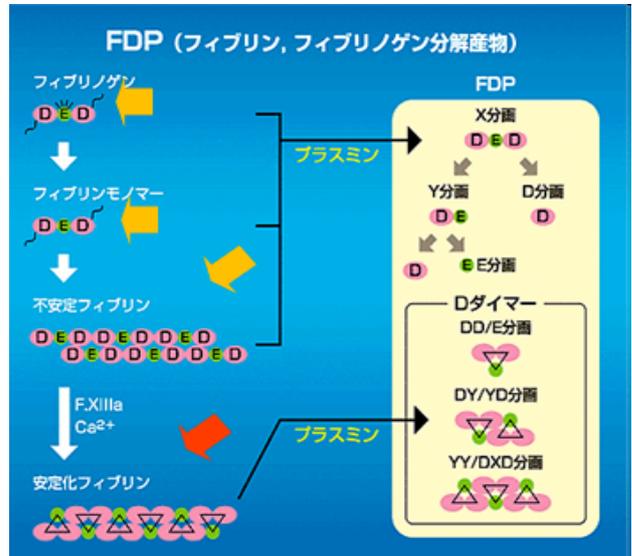
【測定原理】

本キットの測定原理は、ラテックス凝集反応を利用したLIA 法により FDP を定量測定する方法です。検体と抗ヒト FDP モノクロナール抗体（マウス）感作ラテックスを混合すると、検体中の FDP との抗原抗体反応によりラテックス粒子の凝集が生じ濁度が増加します。その変化量を波長 575～800nm で測定し、検量線により検体中の FDP 濃度を求めます。

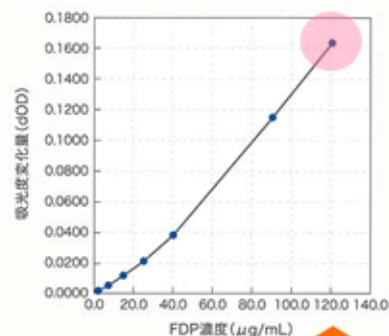
【特徴】

従来試薬と比べ、線溶更新状態をより正確に反映出来る様、一次線溶によって生じるフィブリノーゲン分解産物への反応性が高くなっています。また、直線性が 120 $\mu\text{g/mL}$ （CS シリーズ、CA-1500、7000、8000）と高く、再検率の低下および結果報告時間の短縮が図れます。

又、リアスオート D ダイマー・ネオと共通の希釈液、コントロールを採用する事により、ユーザビリティの向上とコストダウンを実現しました。



検量線 (CS-5100)



120 $\mu\text{g/mL}$

資料請求先：048(600)3888